



別海町立中春別中学校



学校だより

令和4年4月28日 発行 校長 岩崎 撰也

知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目指して

校長 岩崎 撰也

コロナ感染の影響が3年目になりました。年度が始まって早々ですが、先日根室管内での感染者が過去最高を記録する中、別海町においても感染者が増加しています。今後もコロナ感染の影響を受けることが予想されますが、学校の教育活動においてはこんな状況だから諦めるのではなく、この状況で何ができるか考え、感染対策をとりながら生徒たちにとって一度きりの中学校生活をできる限り充実したものにしよう職員一同全力で取り組んで参りたいと考えております。

さて、先日 PTA 総会が中止となり、今年度の学校経営方針を皆さまにご説明する機会を失ってしまったので、もう少し詳しく説明させていただきます。まず学校経営の大きな柱として、子どもたちに変化の激しい社会を「生き抜く力」を育てることが学校教育の大切な任務だと思っています。例えば、今回のコロナ禍、ロシアとウクライナの戦争、温暖化への方策、食糧問題、貧困問題、少子高齢化など、生徒たちが社会の中心となる時代においても大小様々な難しい課題が出てくるのが予想されます。そこで大切なことは「自分の頭で考え」、仲間と協力して課題解決に向かう力、人を思いやる豊かな心、行動を支える健康・体力です。このような知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目指して、今年度の実践の重点は、昨年度に引き続き、「学力と人間関係形成力の向上」としております。

「学力の向上」においては、ご存知のように、昨年 GIGA スクール構想として1人1台のタブレットの配布がありました。授業の中で実際の映像を見せることで理解を助けたり、様々な方向から考えさせたりすることで気づきを促すことにもつながりますので、ICT 教育の充実について引き続き取り組んでまいります。また、確かな学力の向上のための具体策のところ「見方・考え方を働かせた課題解決学習」という言葉を使っていますが、聞き慣れない言葉かと思えます。「見方・考え方」は、昨年から中学校で導入された新学習指導要領のキーワードの一つとなっているものです。例えば私はもともと国語の教員ですが、文章を読み解く際に言葉の表現に注意深く着目してその文章が言いたいことを考える。言葉を吟味して説明することでわかりやすい説明になる、など国語においては言葉の表現を尊重する姿勢が考えるための武器になります。このように各教科における「考えるための武器」を生徒に身につけさせることを意味します。生徒たちの「深い学び」に繋がる「見方・考え方を働かせた課題解決学習」を意識した授業改善に全教員で取り組みます。

「人間関係形成力の向上」では生徒指導の3機能（自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育む）を生かした取り組みを行い、「一人一人の生徒にとって学校が『自分の居場所』と感じられる空間であること」を全教職員が意識して取り組んで参ります。

また「豊かな心・健やかな体の育成」で、継続的な課題となっているのは基本的な生活習慣の定着です。メディアコントロール、スイッチオフ22については生徒自身に考えさせることで当事者意識を持たせることを重点として継続的に取り組んでいきます。

今年度も本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

